

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

令和5年度 年 報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地などに加えて、令和3年3月には、厚岸霧多布昆布森国定公園が新たに指定されており、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

今年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目 次	頁
森林環境教育の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 1
【学校林活動】等【森林環境教育】	
地域との連携・普及啓発等の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 6
【地域との連携】【普及啓発の取組み】【広報活動】	
自然再生・生物多様性保全の取組み	・ ・ ・ ・ 15
【雷別ドングリ倶楽部】【研修の受入れ】【野生生物調査】	
【釧路湿原自然再生協議会】	
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取り組み



【学校林活動】

「標茶町立中茶安別小中学校」は、標茶町の市街地から南東約 11km の中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は約 20 名の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林（愛称♪るんるんフォレスト♪）は、同校の西方約 2km に位置し、森林内には、案内板・林道・遊歩道・樹名板・巣箱・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験学習を実施しています。また、同校は開校間もない昭和 6 年から現在まで、植樹活動に取り組むとともに、緑の少年団活動を通じて各種催しに参加する等、積極的に外部との交流を行っており、これまでの緑化推進の功労と森林環境教育の実践が認められ、平成 31 年に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

当センターは、平成 18 年度から学校林活動に携わっており、令和 5 年度は、春・夏 2 回の体験学習及び木工クラフト（ミニツリーづくり）等の活動を企画・支援しました。

春の学校林活動 5 月 24 日（水曜日）

中茶安別小中学校林の通称「るんるんフォレスト」で、春の学校林活動が開催されました。

今年度、GW 明けから新型コロナウイルスの位置づけが季節性インフルエンザと同類に変更になったことから、マスク着用は基本的に参加者の自由で活動を実施しました。（全校児童・生徒 28 名、保護者・先生・関係機関（標茶町役場、標茶町森林組合等）など計 50 名程度参加）

まず始めに、今年は学校林に遊歩道があることから、事前に保護者等の方が刈払いをしていただいた道を約 30 分散策しました。

当センターで学校林内にある樹木をまとめた簡易な図鑑を資料として作成し、それを基に樹木の解説、森林の役割・働き、大切さを説明しました。

次に植樹場所に移動し、標茶町森林組合が「植樹」、当センターが植栽木を野生生物（エゾシカ・ユキウサギ等）の食害から保護するため「保護管（ツリーシェルター）の被覆」について説明したあと、3 班に分かれて植樹、保護管の被覆を行いました。



▽遊歩道の樹木解説の様子

児童・生徒は各々にスコップと苗木を持ち「トドマツ」「カラマツ」の2種・合計100本を「おおきくなあれ！」と元気いっぱい楽しそうに植栽している姿を見ることができました。また、保護管の被覆については、上級生と保護者の方が下級生に被覆方法等を上手に教えて、綺麗に保護管の被覆まで終わらせることが出来ました。(トドマツは枝がかなり多くあり、シェルター内に納めるのに苦労しているようでした。)

当日は、マスクを自由に行っていることもあり、従来よりも楽な感じでの活動になりました。健やかで熱心な生徒・児童達の活躍により無事に活動を終えることが出来ました。今回の活動で植樹した苗木がこれから日々を重ね立派に成長し、中茶安別小中学校の伝統がこれからも続いていくことを願っています。



▽植樹の様子



▽植栽木に保護管を設置する様子

夏の学校林活動 8月31日(木曜日)

今回の活動は、毎年実施している中茶安別小中学校林の愛称「るんるんフォレスト」で、ヒグマが学校林の近隣で確認されたことに伴い、学校内での実施となりました。

まず始めに、全校児童生徒に北海道森林管理局が作成した、楽しく森林のことが学べる「北の森カルタ」のカルタ取りを小学校低学年と高学年・中学生の2班に分かれ行いました。(児童生徒27名)

思っていた以上に白熱したものとなりかなり会場は盛りあがりしました。札を読んでもらったのは、職場体験の研修生2名(北海道教育大岩見沢校生と岩手大学大学院生)にさせていただきました。

児童生徒からは、「面白かった。楽しい。」「またしてみたい。」などの感想がありました。研修生も「貴重な経験をさせてもらって良かった。」と言っていました。



▽カルタとりの様子

その後は、カルタの用語の解説を数名分実施しました。

児童も楽しみながら学習してもらえたのではないかと思います。

次に、森林の持つ役割や機能を話したあと、森林の水質浄化機能を、森林が水をきれいにする仕組みについて、森林の土壌をペットボトルの中に再現した、簡易な濾過装置で実験を行い、森林の水質浄化機能を体験してもらいました。

児童の代表の方に、装置に敷き詰めるミズナラの枯れ葉を入れてもらったり、泥水を装置の上から注いでもらったりと実験の手助けをしてもらいました。

浄化には時間がかかるため短時間では量が少ないですが、若干の水がきれいになるのを確認していただきました。

児童の中には、「(ろ過装置を)自分で作って水をきれいにしてみたい。」「水を大切に使います。」などの言葉が出て、改めて森林の果たす役割を理解してくれていました。

今回の学校林活動は学校内での実施となりましたが、次回の活動は学校林で実施できることを願っています。



▽カルタの解説の様子



▽水質浄化装置実演の様子

ミニツリーづくり 12月7日(木曜日)

標茶町立中茶安別小中学校で、小学1年生～6年生の17名を対象に、木工クラフト「ミニツリーづくり」を実施しました。

この活動は、昨年の評判がよかったことから、毎年の定例行事となり、小学校の2～4時間目の授業として行い、今回で3回目の実施となりました。

当日は、授業参観日として体育館で行われ、当センターが制作指導を行いました。



▽制作の様子

保護者の方々が見守る中、子どもたちは、マツボックリやドングリ、木の枝等の森林の恵みを自在に組み合わせて、「ミニツリー」や「森林のいきもの」等創造性あふれる大人では生み出せない素晴らしい作品を数多く制作し、また、親子で作品づくりに取り組む姿もあり、会場は、笑顔あふれる和気あいあいとした和やかな雰囲気にも包まれていました。

また、今回は、木製のフォトフレームづくりもメニューに取り入れました。

限られた時間での活動でしたが、皆、次々とアイデアを生み出し、手を止めることなく作品づくりに取り組む子どもたちの姿を目の当たりにし、発想力・想像力の豊かさに感服するばかりでした。

授業を参観した保護者からは、「子どもが前日から楽しみにしていました。」「木工クラフトを子どもと一緒にできて良かったです。」や「子どもたちの自由な発想力ってすごいですね。素晴らしい力作が出来てますね。」などの声がありました。

この活動で作り出した作品が、各家庭での楽しいひとときを演出する一助となり、木や自然への興味を深めるきっかけになってくれれば大変うれしく思います。



▽職員のお手伝い



▽児童の制作した力作

【森林環境教育】～虹別中学校の総合的な学習の時間を支援～

森林の水質浄化機能・水源かん養機能の講話 5月10日(水曜日)

標茶町立虹別中学校（標茶町虹別）で、総合的な学習の時間に「森の講話」の森林環境教育支援を行いました。

この取組は、昨年3月に虹別中学校の担当の先生より、森林の持つ役割や持続可能な循環型社会（SDGs 関連含めて）のことなどの講話のご依頼をいただいたことから、全校生徒（26名）を対象に昨年実施させていただいたものに続いての講話となります。

今年の内容については、森林の水質浄化機能と水源かん養機能についての講話をさせていただきました。（今年度は、全校生徒28名）

まず始めに、森林の水質浄化機能についてですが、森林が水をきれいにする仕組み

みについて、森林の土壌をペットボトルの中に再現した、簡易な濾過装置で実験を行い、森林の水質浄化機能を体験してもらいました。

生徒の代表の方に、装置に敷き詰めるミズナラの枯れ葉を入れてもらったり、泥水を装置の上から注いでもらったりと実験の手助けをしてもらいました。浄化には時間がかかるため短時間では量が少ないですが、若干の水がきれいになるのを確認していただきました。



▽森林の持つ役割・働き説明



▽簡易な水質浄化体験



▽浄化された水を見る生徒達

生徒の中には、「こんな仕組みになっているんだ。勉強になりました。」「森林や自然を大切にしないといけない。」などの言葉が出てきて、みんな真剣なまなざしを注いでいました。

次に、森林の水源かん養機能として、分かり易い図解のマンガで、森林が水を蓄える機能があるのと同時に土砂の崩壊を防止すること、緑のダムとなって徐々に河川に水が流れていくので、乾季が続かない限り、川にはいつも水が流れ、日常生活用水にも使われていること。そして、私達の生活をするうえで必要不可欠なものとなっていることなどの解説を実施し、身近にある森林の役割を幅広く知ってもらいました。



▽水源かん養機能説明の様子

最後に、『私達がいつも飲んでいる水道水は、森林の「水質浄化機能」や「水源かん養機能」の恩恵を受け、長い時間を掛けて湧き出てきた豊富な地下水や湧水をも

とに作られています。

森林資源が豊富な我が国では、蛇口をひねると水が出てきますが、この状況をあたりまえと考えず、森林の働きについて、今一度考える機会としていただけたらと思います。豊かな森林を守り育て、未来へつなぎ、限りある水資源を大切に使いましょう。』と説明させていただきました。

今回の取組を通じて生徒の皆さんが森林の良き理解者になってもらえればうれしく思います。

今後も、要請があれば少しでもお役に立てるようセンターとして積極的に応えて行ければと考えております。

地域との連携・普及啓発等の取組み



【地域との連携】

ふれあい木工クラフト（釧路市こども遊学館） 4月29・30日（土・日曜日）

4月29日（土）～5月7日（日）の9日間、釧路市こども遊学館（釧路市幸町）で、GW イベント2023「木のおもちゃをたのしもう！」が開催されました。

期間中、木をテーマに、GW ワークショップ端午の節句にちなんだ木工、「木いちごチャームを作ろう！」等の様々な催しが行われ、当センターからは、イベント序盤の4月29日（土）・30日（日）の2日間、自然の素材を使った「ふれあい木工クラフト」を開催しました。当センターは、こども遊学館のスタッフとボランティアの皆様にお手伝いいただき、マツボックリや木の枝・輪切りの木などの森林の恵みで木工クラフトづくりを行いました。

当日は、小さなお子さんや大人の方も熱中して木工クラフトを楽しんでおり、見事な作品や個性的な作品等を作られている姿が見られました。参加者の方々からは「おもしろい！」「かわいい！」「また来てつくりたい！」「楽しかった！」等の嬉しい声が飛び交っていました。



▽木工クラフトづくり会場の様子



▽参加者の完成した作品

新型コロナウイルス感染症予防の対策もしっかりとられ、2日間で200名を超える参加があり、親子や友達同士で木工クラフトづくりに熱中する様子が見られる等、大盛況となりました。

森林の話しとミニツリーづくり 5月28日（日曜日）

～森林の水質浄化機能（簡易装置で説明）など～

鶴居村ふるさと情報館「みなくる」多目的ホール（鶴居村鶴居東）において、村の教育委員会主催の5月講座「木育ワークショップ」の活動支援を行いました。

この取組は、鶴居村教育委員会より、村内小中学校の児童生徒参加で毎月講座を実施しており、5月講座として「木育ワークショップ」を行いたいので、内容はお任せするのでお願い出来ませんかとのご依頼をいただいたことから協力することになったものです。

内容については、森林の水質浄化機能と水源かん養機能の講話とミニツリーづくりをさせていただきました。（今回は、小学校児童12名、保護者若干名の参加）

まず始めに、森林の水質浄化機能についてですが、森林が水をきれいにする仕組みについて、森林の土壌をペットボトルの中に再現した、簡易なる過装置で実験を行い、森林の水質浄化機能を体験してもらいました。

児童の代表の方に、装置に敷き詰めるミズナラの枯れ葉を入れてもらったり、泥水を装置の上から注いでもらったりと実験の手助けをしてもらいました。浄化には時間がかかるため、短時間では量が少ないですが、若干の水がきれいになるのを確認していただきました。

児童の中には、「すごい水がきれいになってる。」「森のはたらきがわかりました。」などの言葉が出て、改めて森林の果たす役割を理解してくれていました。

次に、森林の水源かん養機能として、分かり易い図解のマンガで、森林が水を蓄える機能があるのと同時に土砂の崩壊を防止すること、緑のダムとなって徐々に河川に水が流れていくので、乾季が続かない限り、川にはいつも水が流れ、日常の生活用水にも使われていること。そ



▽森林の役割・働き説明



▽水質浄化装置説明

して、私達の生活をするうえで必要不可欠なものとなっていることなどの解説を実施し、身近にある森林の役割を幅広く知ってもらいました。

『私達がいつも飲んでしている水道水は、森林の「水質浄化機能」や「水源かん養機能」の恩恵を受け、長い時間を掛けて湧き出てきた豊富な地下水や湧水をもとに作られています。

森林資源が豊富な我が国では、蛇口をひねると水が出てきますが、この状況をあたりまえと考えず、森林の働きについて、今一度考える機会としていただけたらと思います。豊かな森林を守り育て、未来へつなぎ、限りある水資源を大切に使いまわしましょう。』と説明させていただきました。

しばらくの休憩の後、後半は、教育委員会や保護者の方にお手伝いをいただきマツボックリや木の枝・輪切りの木等の森林の恵みでミニツリーづくりを行いました。

児童の見事な作品や個性的な作品等を作っている姿が見られました。児童からは「おもしろかった!」「またつくってみたい!」「楽しかった!」等の声が出ていました。皆さんに喜んでいただけたようでした。

今回の取組を通じて、児童の皆さんが森林のことをある程度でもわかってもらえればうれしく思います。

今後も、要請があれば少しでもお役に立てるようセンターとして積極的に応えていければと考えております。



▽泥水を水質浄化装置に注ぐ様子



▽きれいになる水を見る児童達



▽ミニツリーづくりの様子

第 31 回カミングパラダイス（白糠町） 9月3日（日曜日）

9月2・3日（土・日）の2日間、白糠町のハミングロードで、第31回「カミングパラダイス」が開催されました。

このイベントは、駅前の南通り商店街の通りを開放して行われるもので、地元住民による露天やフリーマーケット等の懐かしい遊びのコーナー、さらに、郷土芸能「駒踊り」の披露等、多様な催しがありました。

当センターは、白糠町緑化推進委員会の木育の取組みと連携し、3日（日）にマツボックリや輪切り、アイスの棒等を用いた木工クラフトづくりを行いました。

子どもたちに、思い思いの作品を作ってもらったところ、出来上がった作品は、端材を沢山使った大きな作品や木の輪切りにかわいらしい顔を描いた作品等、子どもたちの笑顔がいっぱいになる個性的な作品が沢山ありました。

当日は、この時期としては暑く、日差しが強く真夏を感じさせる天気でしたが、親子と一緒に木工クラフトに取り組む姿や子どもたちの仲間どうし、友だちと一緒に作る様子が見られる等、大盛況となりました。当センターのブースを訪れた皆さんの笑顔が印象に残る一日となりました。来年も是非協力していきたいと思えます。



▽木工クラフトづくりの様子



▽完成した力作

企業との協働による植樹 9月23日（土曜日）

秋分の日、雷別地区自然再生事業地の笹覆い地（標茶町雷別国有林）で、「企業との協働による広葉樹の森林づくり」を行いました。

この活動は、札幌市に支店を置く企業が、社会貢献活動の一環として、平成29年度から当センターと協働し、雷別地区自然再生事業地で行っている自然再生の取組みで、今回で第6回目の開催となります。

当日は快晴に恵まれ、カラッとした爽やかな秋空の下（参加者28名）、雷別地区の郷土樹種である広葉樹（ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、カツラ）150本を植えました。植栽後、植栽木をエゾシカやエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

参加者の方は、快適な天候のもと、心地よい汗をかかれ作業が順調に実施出来たところです。

まず始めに、企業の代表者から開会のご挨拶をいただき、続いて、当センター所長から遠方より来ていただいたお礼、植樹の意義とSDGsについての話、また、企業による社会的貢献活動の感謝を交えて挨拶を行い、その後、参加者は、植樹班と保護管組立班に分かれ、それぞれの班で当センター職員による現地案内などを受けながら森林づくり活動に取り組みました。

参加者の皆さんは、初めての方や何回か経験のある方などおられましたが、経験者が初めての方に指導するなどし、手際良く作業を進められ、順調に終了することが出来ました。

参加者からは、「天候が爽やかで、気持ちよく作業が出来て良かった。」「これまでの植樹の成果が現地を見て実感出来た。」「楽しく植樹が出来た。滅多に来ることがない森に触れることが出来た。」等の感想をいただき、この活動に満足された様子でした。

最後に、会社の支店長より「継続が大事だと考えており、引き続きこの活動を続けていきたい。」との心強い発言をいただき、来年度以降もセンターとして協力していきたいと思えます。



▽植樹の様子



▽植栽木に保護管を設置する様子

2 023 木育・森づくりフェア

10月14日（土曜日）

10月14・15日（土・日）の2日間、イオンモール釧路昭和のサンコート広場で、2023「木育・森づくりフェア」が開催されました。

この催しは、木育の取組みを通して、協働の森林づくりへの関心を高めるため地域住民の方々に「木とふれあう機会を



▽会場の様子

提供」し、「森林づくりの重要性」や「木の良さ」等への理解を深めていただくことを目的として、釧路町村会環境保全型森づくりプロジェクトチームとくしろ森と緑の会が呼びかけ人となり、国有林、釧路総合振興局、根室振興局及び関係団体が連携して行われたものです。

会場には、釧路管内の木育・植樹活動を紹介する「パネル・木製品展示コーナー」、森のピタゴラス、カブラ積み木等などの木で遊べる「木製遊具コーナー」、原木カスタネットづくりやウッドシェイカーづくりが出来る「木育広場」、木の葉や輪切り、枝等で木工クラフトが作成できる「木工作体験コーナー」等、様々なブースが設けられました。

当センターは14日（土）に、根釧西部森林管理署と連携して、マツボックリ・木の輪切りや枝等で「ミニツリーづくり」を企画したところ、開始早々から親子連れや友達同士などが続々と当ブースを訪れ、ミニツリーの見本を参考に材料選び、木工クラフトづくりを楽しんでいました。また、当日は別の場所イベントがあることから参加者が少ないのではと思っていましたが、午後からは多くの方が訪れ、用意した席がいっぱいになる時があるなど、会場は大いに賑わいました。来年度以降も実施があれば協力していきたいと思えます。



▽ミニツリーづくりの様子



▽ミニツリーの力作

【普及啓発の取組み】

職場体験プログラムの実施（学生受入れ） 8月30日（水）～9月1日（金）

3日間の日程で、令和5年度夏期職場体験生2名（北海道教育大学岩見沢校生と岩手大学大学院生）を当センターで受け入れました。

職場体験の取組は、学生の就業意欲の育成や森林・林業、国有林野事業への理解を



▽測桿での立木調査体験

深めてもらうため実施しているものです。

初日は、センターでのガイダンス（センターの活動内容や標茶町雷別国有林における自然再生の取組みについて説明）後、植栽木調査を午前中に行い、雨模様になってきたため予定を変更し、午後からは、主にカラマツの一大造林地パイロットフォレストの望楼見学、2日目は、当センターで長年お付き合いさせていただいている標茶町立中茶安別小中学校での「夏の学校林活動」に参加していただき、前日、時間の関係で出来なかったパイロットフォレスト紹介 DVD の視聴、研修棟の機材展示庫を見ていただきました。

3日目は、標茶町虹別国有林で防風保安林・間伐・主伐実行箇所及び西別岳登山口等を見学、最後にネイチャーゲーム等を通じての自然体験学習、また、野生生物自動撮影カメラの仕組み解説などを受講していただきました。

職場体験生は、当センター職員の説明のもと、各カリキュラムを熱心に受講していました。

今回の受け入れでは、3日間という短期間でしたが、中身を充実させた内容で現地を含めて紹介、体験をしていただけたのではないかと感じております。

職場体験生の感想として、「貴重な体験・経験をさせていただき大変勉強になりました。」「いろんな実務や経験が出来、また、自然の中で自然に触れる仕事をすることは魅力的でした。」等の声があり受講後は、充実された様子でした。

職場体験生は受講態度も良好で、積極的に内容を理解・吸収したいという姿勢が随所で見られました。森林施業関係、身近な植物や樹木の質問などもあり大変良かったのではないかと思います。

当センターにとっても、学生の皆さんの将来を考える機会を設けていける、携わら



▽夏の学校林活動参加の様子



▽パイロットフォレスト紹介 DVD 視聴



▽防風保安林見学の様子

せていただけることを大変有りがたい思いです。今後も、機会があれば進んで実施していきたいと考えております。

京都大学・北海道大学学生がパイロットフォレスト見学 9月12日（火曜日）

京都大学、北海道大学の学生が、厚岸町と標茶町に広がるパイロットフォレスト国有林を見学しました。

これは京都大学と北海道大学が、北海道研究林標茶区（京都大学）及び厚岸臨海実験所（北海道大学）を拠点として、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、そして、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象として、森林植生・水生生物・土壌・堆積物等に係る実習（総称「森里海連環学」）を行っており、その一環として訪れたものです。

まず始めに研修棟で、パイロットフォレスト造成時の様子を記録した DVD を学生の皆さんに視聴してもらいました。

質疑応答の後、若干機械庫を見学し、その後望楼へ移動しカラマツ造林地を眺望しました。当日は、曇り空で霧がありそれほど遠くまでは見えませんでした。学生の皆さんは望楼から眺望する広大な森林の風景に感動している様子で「霧がかかっていたけど林内が見れて良かった。」等の声がありました。

パイロットフォレストの案内看板も職員から説明を行い、見学を終え次の見学地に一行は向かわれました。



▽パイロットフォレスト紹介 DVD 視聴



▽機械庫見学の様子



▽望楼からの眺望の様子

国有林若手職員対象の OJT（樹木勉強会） 10月26日（木曜日）

厚岸町愛冠の道立自然公園内の道有林にある「厚岸樹木園」で「根釧西部署若手職員 OJT（樹木の研修）」を業務グループと現場職員（森林事務所）から各1名の計2名が参加し、釧路湿原森林ふれあい推進センター職員が講師となって支援し実施しました。

この OJT は、入庁3～数年の若手職員が、まだ十分に樹種の名前などを把握していないことから、署と当センターが連携・協力し実施したものです。

樹木園では、針葉樹と広葉樹が入り混じった天然林の中に、道内樹種53種のほか、道外樹種16種、外国樹種13種の約800本の樹木があり、当センター職員の解説を交え散策しました。

参加者からは、「似た形状の樹種があり、見分け方など勉強になりました。」「実際に樹木についての研修を受けるのは今までなかったので参考になりました。」などの声があり、充実した表情をしていました。

最後に、当センター所長から、「参加の皆さんが各自研鑽を積まれ、本で行った研修を基礎として、形状が似た樹木の違いを木の肌や葉の違いで覚えていただければと思います。」などの挨拶があり、その後、昼食箇所も兼ね、道の駅厚岸コンキリエに立ち寄り、帰路につきました。



▽樹木の勉強をする研修生

【広報活動】

当センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページと広報紙「飛鶴の森林から」で情報発信に努めており、森林環境教育や自然再生の取り組み等を掲載していますので、是非、ご覧ください。

ホームページ https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

飛鶴の森林から https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/letter/index.html

※下記二次元コードからもアクセスできます。



◀◀◀ 当センターホームページ

広報紙「飛鶴の森林から」 ▶▶▶



自然再生・生物多様性保全の取組み



【雷別ドングリ倶楽部】

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、平成19年7月から「広葉樹の森林づくり」（森林再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。今年度は23名で森林づくり活動等を4回行いました。

正美公園散策（中標津町計根別）【第1回活動】 8月2日（水曜日）

中標津町計根別にある「正美公園」において、第1回「雷別ドングリ倶楽部」の自然観察を実施しました。

会で植樹と併せ根釧地域の森林の名所を巡る活動計画があり実施する運びとなったもので、当日は、会員14名が参加し、夏空でかなりの暑さでしたが、センター職員の若干の解説を交え散策しました。

「正美公園」は、中標津市街から約16kmの位置にあり、計根別地区の市街地に接し、近くには中標津農業高校もあります。公園内は、広葉樹を主体とした樹種の豊富な場所です。

この地は、酪農振興の指導者として地域の発展に大きく貢献された故成田正美氏が「北方樹木園」の夢を描き、その生涯を掛けて、ひとり自力で広葉樹を主体とした数十種類の樹木を植え込み、造成に取り組まれていたものを、昭和58年に地域へ寄贈された場所です。

町と住民は、氏の意味を引き継ぎ、故人の名に因んで「正美公園」と命名し、町民の憩いの場として、正しく美しい人づくりを自然とのふれあいの中から生み出すことを目指して整備された公園で、素晴らしいパークゴルフ場もあります。

公園内の樹木見本園を散策しながら、事前に用意した資料を基に主要なミズナラ・ハルニレ・キハダ・クルミ等の樹木解説をしました。また、遊歩道沿いには、ノリウ



▽正美公園の成り立ちの説明



▽樹木見本園内の散策

ツギ（別名サビタ、クリーム色の花）などの灌木類、ホザキシモツケやツリガネニンジンなどの草本類も花を咲かせていました。

会員からは、「こんないい公園があるなんて知らなかった。プライベートでも来てみたい。」「なんか落ち着ける場所。来て良かった。」などめいめいが公園内をリラックスして楽しまれているようでした。こんな声にさぞ故人も喜んでくれているでしょう。故人の町への愛が詰まった公園を十分堪能し、帰路につきました。



▽公園内遊歩道の散策



▽遊歩道沿いのツリガネニンジン

広葉樹の森林づくり【第2回活動】 9月27日（水曜日）

雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別国有林）で、第2回「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

今回の「広葉樹の森林づくり」活動には、会員15名が参加し、ミズナラ・ヤチダモ・ハルニレ・カツラ計50本の植樹と共に、植栽木を野生生物の食害から守るため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

参加者は、当センターから作業内容等の説明を受け、晴天の秋空のもと、鋤を手に植樹に取り掛かりました。準備した苗木は1時間程で植え終わりましたが、笹の根が密集していて、植穴を掘るのに苦労されたようです。

その後、昼食の時間まで、今年度からの新しい取組みとして、保護管の材料が土に帰る生分解性の保護管組立ての説明を行い、午後からは、保護管を植えた苗木に被覆していきました。皆さんちょっと従来の保護管と勝手が違うので戸惑った様子で組み立てていましたが、慣れてくると順調に作業を進められ、だいたい予定の時間で保護管の設置が完了しました。



▽植樹の様子



▽生分解性保護管の組立説明



▽植栽木に保護管を設置する様子

森林づくり活動後には、当センター所長から、「植樹は、地球温暖化防止、SDGsの観点から大変意義のある活動であり、皆さんの貢献により植えられた樹木が順調に生長しております。誠にありがとうございます。」等の挨拶があり、皆さん充実した表情で会場を後にし、帰路につきました。

防風保安林、国有林の施業実行済箇所見学、多和平自然観察

【第3回活動】 10月11日（水曜日）

標茶町虹別で防風保安林*¹見学と国有林の施業実行済み箇所の見学（間伐*²・主伐*³箇所）、標茶町の観光名所でもある「多和平」で第3回「雷別ドングリ倶楽部」の秋の自然観察を実施しました。

当日は、会員11名が参加し、朝と午後からは晴天でしたが、若干寒さを感じる天候の中、センター職員の若干の解説を交え散策しました。

参加者からは、「普段余り来ないところを見られたのと森林の管理をちゃんとされているのを実感できました。」「多和平で景色がよく良かった。」などの声があり満足されていました。

次に、当センター所長から、「今年度の活動は、2月の来年度の計画を決める会を残すのみで、雷別地区自然再生事業地での植樹や自然観察など多くの会員の方にご参加いただきました。感謝申し上げます。



▽防風保安林見学の様子



▽主伐実行済み箇所の見学

す。来年度もより充実した内容で計画しますので是非ご参加をお願いいたします。」との挨拶がありました。

また、参加者の方から、今までの植樹した箇所^①の生長状況など教えて欲しい旨のご意見がありましたので、次の第4回目の会合で結果を事務局より報告することとしました。皆さん深まりつつある秋を満喫され、帰路につきました。



▽間伐実行済み箇所の見学

【用語解説】

- *1 **防風保安林**：強い風を防ぎ、和らげるための森林で、強風から私たちの暮らしだけでなく農地や道路なども守っています。
- *2 **間伐**：森林の成長に応じて樹木の一部を伐採し、過密となった林内密度を調整する作業です。間伐を行うと、光が地表に届くようになり、下層植生の発達が促進され、森林の持つ多面的機能が増進します。
- *3 **主伐**：材木を収穫するための伐採であり、更新（伐採等により樹木等が無くなった箇所に、植林を行うことや自然力の活用等により森林の世代が変わること）を伴うものを指します。

次年度の計画を検討【第4回活動】 2月7日（水曜日）

この活動は、今年度の活動を振り返り次年度の計画を検討させていただく場であり、会員の方より貴重なご意見を頂くことが出来ました。（参加者10名）

当センター所長のあいさつの後、事務局より資料に沿って、今年度の活動等の紹介、次年度の活動計画（案）・会員募集等の説明を行いました。

会員の方々からは「植樹した木が順調に生長している様子がわかった。過去の植樹箇所を見たい。」や「生分解性



▽活動の様子

の保護管はどれくらいで分解が始まるのか。保護管を超えた樹木はエゾシカの食害に遭わないのか。」等のご意見・ご質問があり、事務局から「植栽木の生長状況など雷別の現地で植樹後や別の行事を設定して見ていただく機会を設けたい。」「今年度設置した生分解性の保護管は5年後くらいから分解が始まるが、植栽木が大きくなる前に保護管が分解し、外れてしまうとエゾシカ等の食害に遭うので、今後、色々

なタイプを試行的に設置していくこと。保護管を超えた樹木は、エゾシカの立ち上がった採食ラインが2m程度で管の高さが1.8mなので、多少被害はあるが限定的であること。」などお答えしました。

次に、来年度の自然観察箇所の候補地3箇所を事務局案としてあげ、会員の方の希望で中標津町の緑ヶ丘公園に決めさせていただきました。

これらの声・結果を踏まえて、次年度の計画を検討することとして、令和6年度「雷別ドングリ倶楽部」の活動内容を確定しました。

【研修の受入れ】

JICA 中央アジア広域研修（雷別地区自然再生事業地視察） 11月14日（木曜日）

標茶町雷別地区国有林の自然再生事業地（根釧西部森林管理署標茶森林事務所部内293ろ林小班）に、国際協力機構（JICA）の2023年度中央アジア広域研修「地域振興に寄与するエコツーリズム等の持続可能な湿地資源の利用」コースの約2週間半の研修（東京・帯広・釧路・札幌等で実施）の1コマとして研修員9名（カザフスタン・ウズベキスタン・タジキスタン各3名）と委託先の一般財団法人自然環境研究センター上級研究員1名、JICAの研修監理員2名の計12名が訪れました。

この研修は、湿地保護に従事する中央・地方政府の関係者が、地元住民の参加を得て湿地の適切な利用（Wise Use 又は Reasonable Use）を促進する行動計画を実行し、地域開発、環境、生物多様性保全に貢献することが出来るようにする目的で行われるとのことです。

当日は、少し肌寒い天候ではありましたが、事前に提出していた資料を基に現地3箇所を案内説明しました。

1箇所目では、まず雷別地区の自然再生事業の概要についての説明を行いました。

当地区は、釧路湿原の源流部に位置し、自然環境の維持・保全を図る上で重要な場所であること。林齢70年以上の高齢の針葉樹（トドマツ）の人工林が広がっていましたが、平成12年の気象害（厳寒少雪



▽自然再生事業地の概要説明

等による土壌凍結）で立ち枯れし、笹地となった被害跡地の水土保持機能を回復させるため、雷別地区自然再生事業実施計画（平成19年策定）に基づき、元来この一帯は、広葉樹が主体の森林であったことからその再生に取り組むこととなり、その実施（植栽）が地域住民、森林ボランティア団体、学校、企業の社会的貢献活動との協働により、森林再生に取り組んで来たことを説明し、今回の研修の目的である「地元住民の参加を得て湿地の適切な利用を促進する行動計画を実行していくこと」にも合致

している旨話しをし、共感を得ました。

次に、植栽箇所に野生生物の食害（エゾシカ・野ウサギ等）が多く見られたことから苗木を守るため、高さ1.8mのプラスチック製保護管（通称ツリーシェルター）の被覆を行った箇所のうち、最初に、平成21年に植栽し、植栽後14年が経過した笹地13のD51区画（100本植栽、うち50本に被覆）において保護管を被覆した植栽木は、順調な生育を示しており、今後の生長が期待できる状況である旨を説明し、確認してもらいました。



▽自然再生事業地見学の様子

その後、ここ4～5年で植栽した2箇所（笹地11、笹地10）を見学してもらい、年数がある程度経過すれば、先ほど見た箇所と同じように植栽木が保護管を超え、大きく生長していくことが想定されることから、一定の大きさ太さに達したものは保護管を外していく予定である旨話しをし、環境に配慮した施業ということで保護管の回収、資源としての再利用・リサイクルも考えている旨説明し、今年からは、最終的に自然に帰っていく「生分解性のツリーシェルター」の設置も行っていることも説明させていただきました。



▽自然再生箇所(笹地11)の説明



▽自然再生箇所(笹地10)の説明

研修員からは、「地域住民やボランティア団体、学校、企業などとの協働の取り組みは興味深く参考になりました。自分の国でもできれば実施してみたい。」「自然に帰るものとして、植物の「ヨシ」を編んで保護管を作ったりしている。他の材料でもやってみたい。」など積極的な意見や考え方等の提言がありました。質疑応答



▽質疑応答・まとめ

も盛り上がりました。

最後の見学箇所では、野生生物の自動撮影カメラを設置していたため、興味深く見入っている研修員もいました。

最後に、研修員の代表からお礼の言葉をいただき、当日の宿泊先である釧路方面に向かって雷別を後にされました。

【野生生物調査】

この調査は、中大型ほ乳類の生息動向を探るために実施しており、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。

今年度は当センターでは、7月に雷別国有林の5箇所と標茶町立中茶安別小中学校の学校林の1箇所の計6箇所で、撮影やデータ収集等を行いました。当該調査箇所では、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていません。

今後もこの調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。



▽ネコ(R5.7 雷別 P1)



▽エゾシカ(R5.7 雷別 P2)



▽シギ類(R5.7 雷別 P5)



▽エゾタヌキ(R5.7 雷別 P5)

【釧路湿原自然再生協議会】

森林再生小委員会「第23回」

11月9日（木曜日）

釧路合同庁舎会議室及び Web 形式の併用で開催されました。

森林再生小委員会では、森林の再生（野生生物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等を検討しています。

当日は、当センターが釧路湿原源流部で取組んでいる「雷別地区自然再生事業」と環境省釧路自然環境事務所が釧路湿原国立公園内で実施している「達古武地域自然再生事業」について、本年度の取組状況や次年度の予定を説明し、意見交換を行いました。

特に、「雷別地区自然再生事業」において植栽木を野生生物（エゾシカや野ウサギ）の食害から守る保護管（ツリーシェルター）がプラスチック製であることから一定程度大きくなった植栽木については、環境への影響を考慮し、今後、状況を見ながら保護管の撤去や再利用（リサイクル）を実施していくことと、今年度から保護管の材料が自然に還っていく「生分解性のツリーシェルター」の設置を始めたことも報告させていただきました。



▽森林再生小委員会の様子

釧路湿原自然再生協議会「第30回」

3月13日（水曜日）

釧路市観光国際交流センターを運営会場として、Web 併用で釧路湿原自然再生協議会が開催されました。

当日は、協議会構成員の公募結果について、新規で個人3名の応募があり、今期の構成員が総勢146名となったことが報告されるとともに、協議会の収支報告や各小委員会から報告がありました。トピックとしては、来年度以降、現在7つある小委員会を大きく3つの合同小委員会にするなど、協議会発足から20年となる2025年に向け、小委員会の再編成が提案され了承されました。

当センターは、森林再生小委員会の開催結果のうち、雷別地区自然再生事業における森林再生の取組状況や次年度の予定を報告しました。

次年度も小委員会での意見を踏まえ、事業を適切に実施することとしております。



▽雷別地区自然再生事業取組状況説明の様子

活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町の1市6町1村）が主な活動区域です。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

URL 右側に表示の
二次元コードからも
アクセスできます。



釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【TEL】0154-44-0533

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



表紙：鶴居村教育委員会主催「木育ワークショップ」における活動支援の様子。詳細は7頁をご覧ください。